

高島市の外来魚問題について

目的

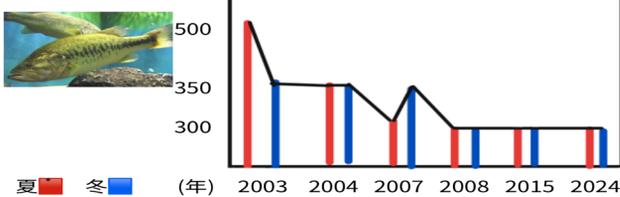
琵琶湖に住む外来魚、主にオオクチバス別名ブラックバスが高島市の人々と漁業組合に与える影響について調べる



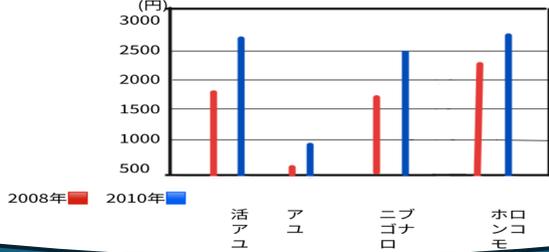
漁業の現状

外来魚は在来魚より一キロあたりの価格低く、できるだけ在来魚の捕獲をメインにしているのが現状となっている。だんだんと外来魚の量も減ってきているが、場所によっては外来魚がメインのところもあり、漁業自体が難しくなっていることがわかった。

外来魚の一キロの価格 (円)



在来種の価格の推移 (円)



展望

ブラックバスは生態系のバランスを壊す存在ではあるが、ブラックバスを揚げ物にして、地元の祭りに出したり、バス専用釣り堀などを作って有料開放したり、肥料として農業に活用、革製品としての販売など有効活用していきいい印象を少しずつもつけていくことが大切であると考えました。

守山 あゆ生息数が少ない
ブラックバスがメイン
在来種主にあゆがメイン

あゆ捕獲禁止

8/20 11/20

海津 あゆの生息数が多い

ビワマス捕獲禁止

8/20 10/1 11/20

あゆ産卵
稚魚しかいない

低温により大型以外の魚の動きが鈍る